



神戸医協ニュース

544
2009. 10. 1

発行／神戸医師協同組合 発行人／小柴 孝夫 〒651-0067 神戸市中央区神若通3-2-15 電話(078)241-8991代 <http://www.kobe-ishikyo.or.jp>



紙上フォト・ギャラリー

早朝の運河

長崎のハウステンボスは園内に宿泊できます。早朝の人通りの少ない運河沿いの散歩は、色々な被写体に巡り会えます。

撮影／神本 博勝（神戸市東灘区）
<http://www.kami-moto.com/>

最近の後発品使用状況の調査によると

理事 津田 正治

衆議院選挙の結果、自民党は歴史的敗北を喫して野党に転落、一方、民主党は圧勝し、政権交代が行われました。民主党は医療福祉に関してマニフェスト通り断行することでしょう。また、長年続いてきた医療費抑制策が見直されることに大いに注目してみたいものです。

医療費削減を目的に、政府が力を入れる後発品使用促進策、その象徴ともいえる処方箋様式の再変更から半年が経過しました。処方箋の備考欄に「後発医薬品への変更可」かどうかの欄を設置し、利用の促進を図ってきました。厚労省は昨年5月、「2012年度までに後発品のシェアを30%以上に」との目標を立て、これが「経済財政の基本方針」となり、政府目標となっています。

しかし、最近の後発品使用状況の調査によると「後

発品不可」とした薬剤が約半数あったとのこと。その理由として、後発品の品質が不安である、つまり「安かろう悪かろう」のイメージを未だに引きずっている医師や、露骨な後発品誘導政策に反発する医師がいることは確かです。また、後発品について「臨床データがないから」「MR が来ないから」などと後発品の情報提供体制に不安感を持っている医師も少なからずいることは事実です。

神戸医師協では、数ある後発品の中でも、安だけでなく良質で、安心してご使用いただける医薬品を提供しなければならないという小柴理事長の営業姿勢のもと、組合員先生方の医業経営のお役に立つよう頑張っています。今後ともより一層、神戸医師協製品をご利用くださいますようお願い申し上げます。